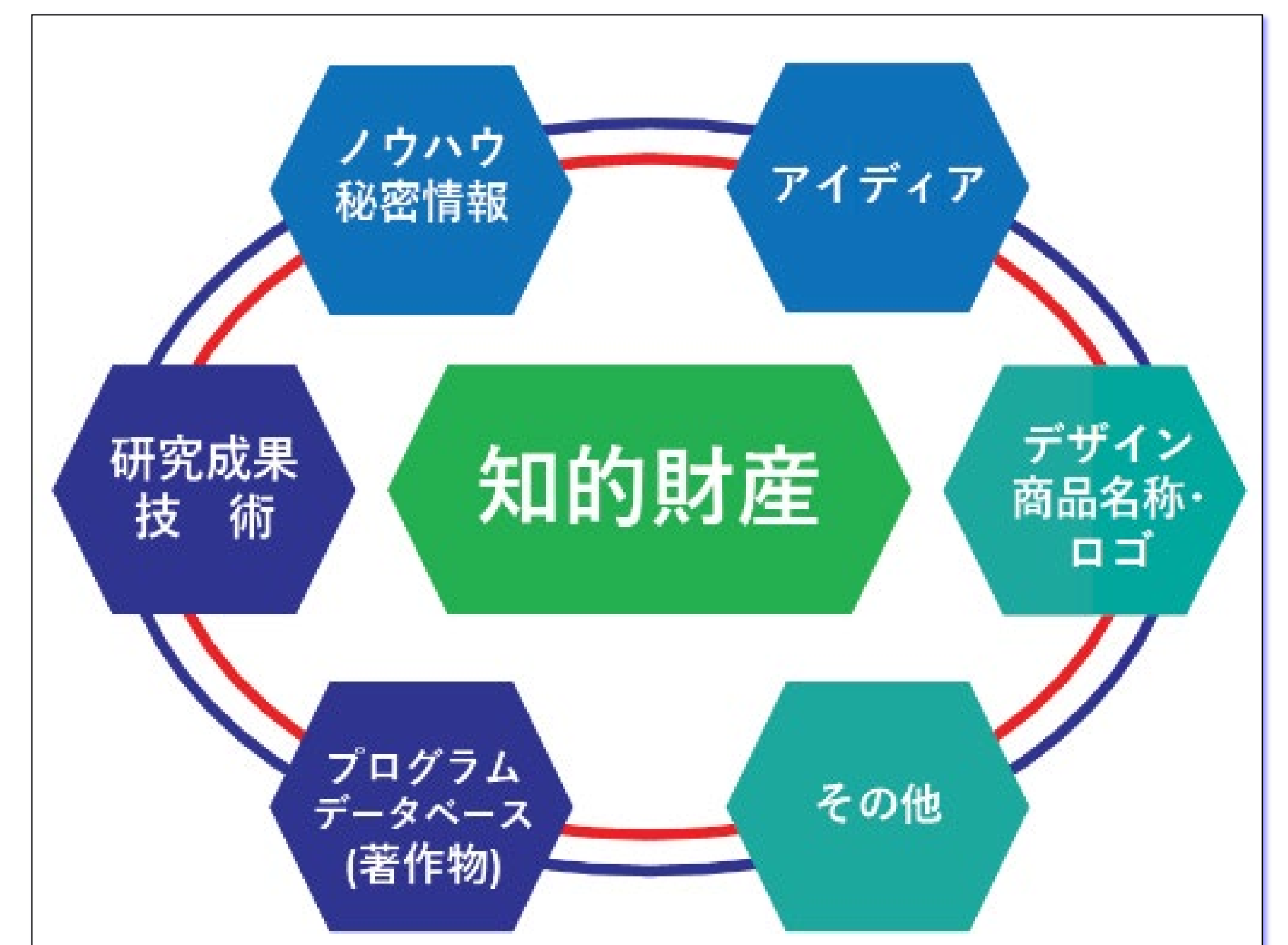


特任教授・弁理士 佐藤 剛



医療機器であっても、医療行為が含まれると解釈される場合があるので、注意しなければなりません。

保護対象の比較 -日欧米-

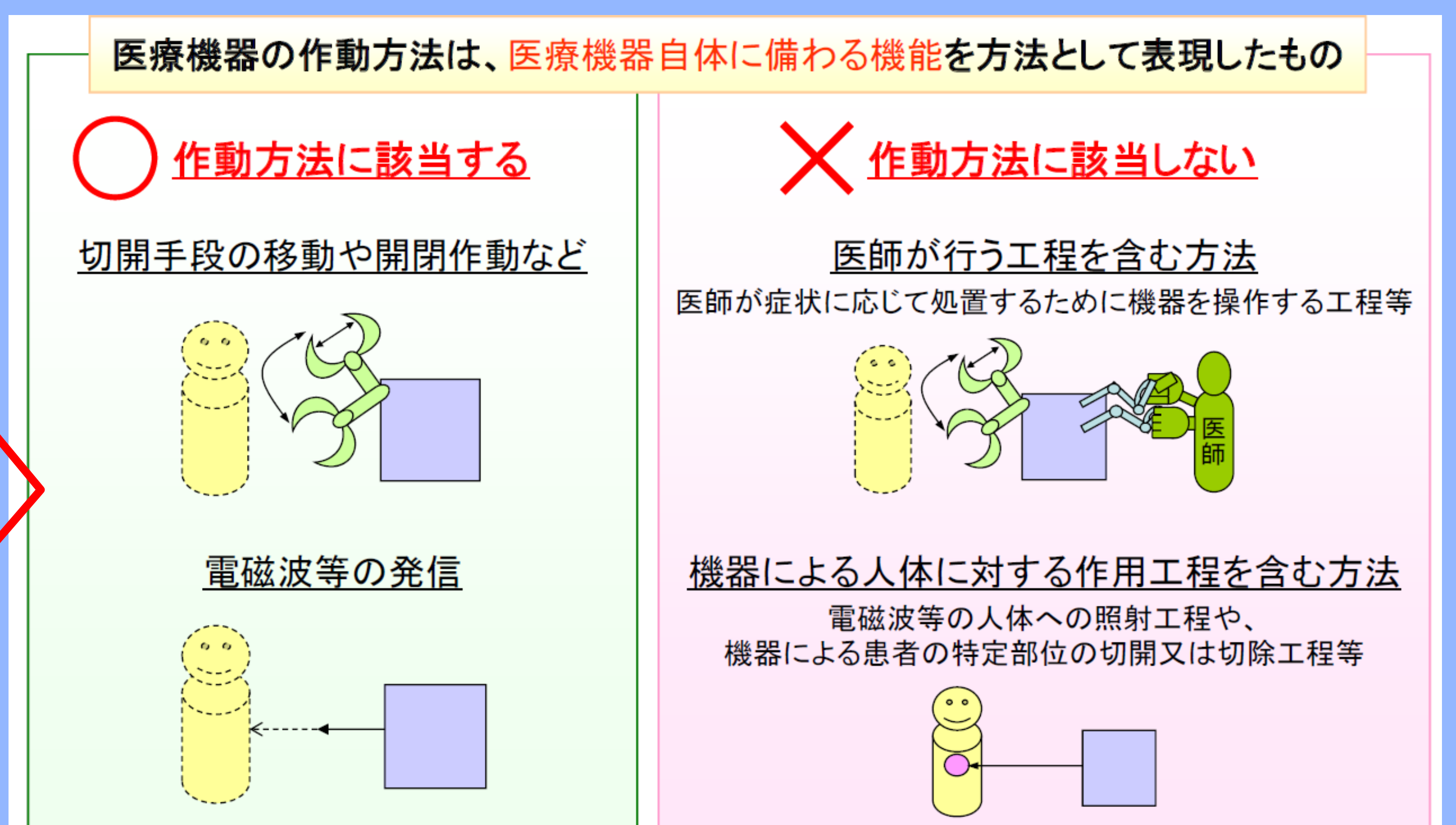
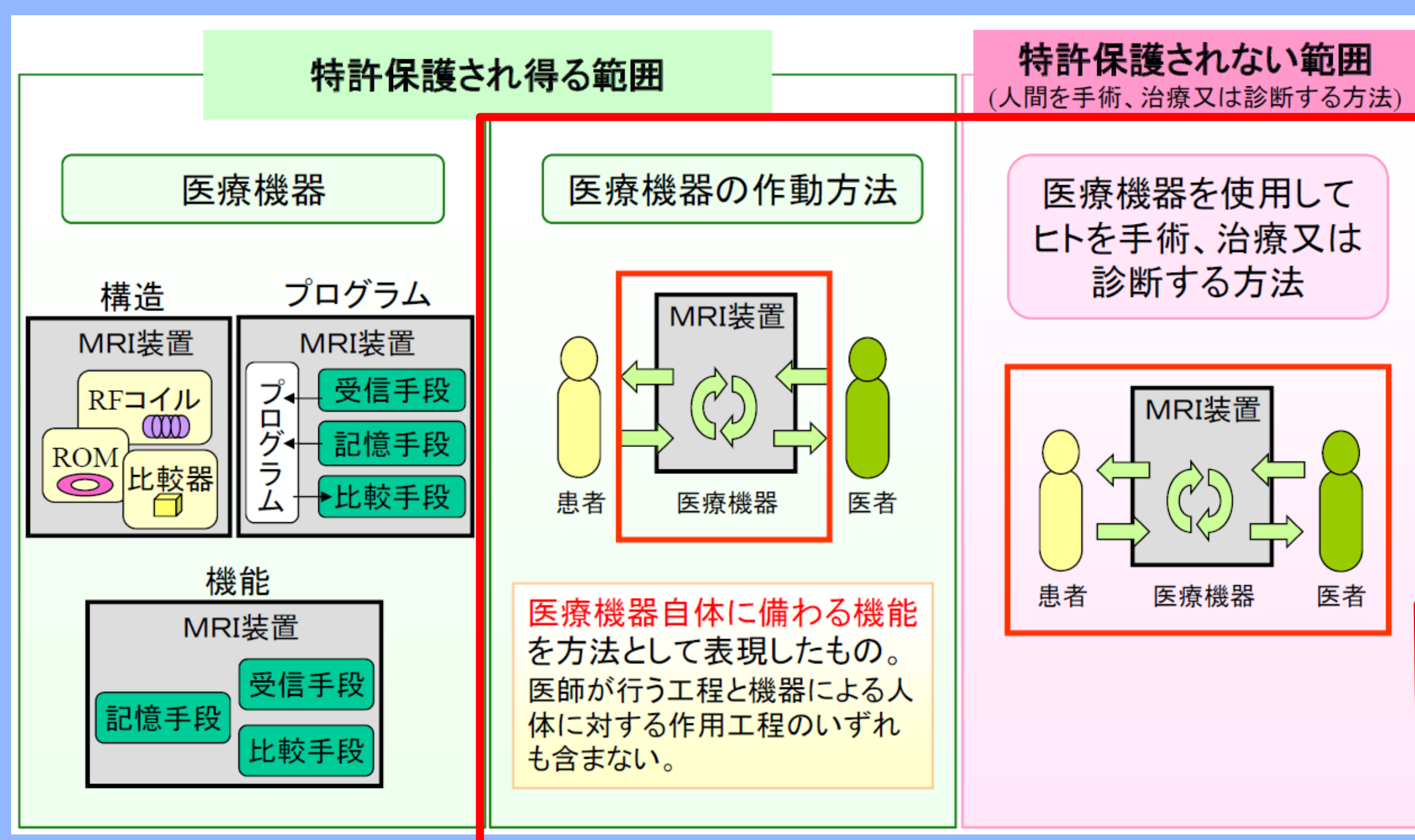
医薬品	医療機器	診断方法		治療方法	手術方法	その他
		人体から採取した組織などの検査方法	診断のための中間結果のみを得る方法			
医薬品	測定装置	生体サンプルの検査方法	血圧測定方法	遺伝子治療方法		
医薬品の製造方法	生物由来製品の製造装置	(生体内に戻さないことを要件とする)	X線検査方法	人工透析	術式	避妊方法
			NMR検査法	DDS	麻酔方法	分娩方法

日本

欧州

米国

医療機器関連発明として保護される範囲



請求項の表現次第で特許保護の対象となり得るか、対象外となるかの差が生じる

○ 特許保護の対象となり得る表現

マイクロ手術ロボット及びこれをマニピュレータで遠隔操作する装置からなる**マイクロ手術ロボットシステムの作動方法**であって、当該ロボットは先端部に光学観察手段及び切開手段、後端部に遠隔操作装置からの操作信号を受信する受信手段を有し、遠隔操作装置に設けられた送信手段がマニピュレータの**操作信号を送信する工程**、当該ロボットが遠隔操作装置からの操作信号を受信手段により**受信する工程**、該受信した信号に基づいて当該ロボットの**切開手段が作動する工程**の各工程からなる、マイクロ手術ロボットシステムの作動方法。

✖ 特許保護の対象外となる表現

マイクロ手術ロボットを用いた患部の処置方法であって、当該ロボットは先端部に光学観察手段及び切開手段、後端部に体外の遠隔操作装置からの操作信号を受信する受信手段を有し、遠隔操作装置のモニターを見ながら患部を処置するためにマニピュレータを操作する工程、当該ロボットが遠隔操作装置からの操作信号を受信手段により受信する工程、受信した信号に基づいて切開手段により患者の患部を切開する工程の各工程からなる、マイクロ手術ロボットによる患部の処置方法。

出典：審査基準 第Ⅲ部 第1章 3. 2. 1及び「ライフサイエンス分野の審査基準等について」 平成30年6月 特許庁 調査課 審査基準室

研究支援・産官学連携センター

E-mail: sato.takeshi@tokushima-u.ac.jp
E-mail: rac-info@tokushima-u.ac.jp

Tel. 088-615-8429 (佐藤)
Tel. 088-656-7592 (事務窓口)

研究支援・産官学連携センター

